

解題・講師紹介

中村学園大学開学50周年記念 流通科学研究所 第10回国際セミナー

中村学園大学 流通科学部

甲斐論

学長と研究所長を拝命しております、甲斐でございます。

まず最初に、本日の50周年記念のセミナーに至った経緯を若干、説明させていただきます。ご承知の方も多いと思いますが、中村学園は、学園祖の中村ハル先生が昭和29年（1954年）に開設された福岡高等栄養学校を基点としています。その後、幼稚園や中学校、高等学校、短期大学、そして大学をつくられ、昨年、60周年を迎えました。今、学園全体で幼稚園の子どもから中学校、高等学校、大学、約6,000名の園児、生徒、学生が学んでいるところです。

特に、その中でも大学は、中村ハル先生が昭和40年（1965年）に開校され、ちょうど本年が50周年となりました。学園全体は開設、61年目ですが、大学は開学50年目ということで、開学50周年記念の国際セミナーに至ったのが経緯でございます。

現理事長の中村量一先生の強力なリーダーシップにより、本学はグローバル化を推進しているところでございます。現在、アメリカ、オーストラリア、中国、台湾、韓国の16校と提携を結んでおります。そのうち、今日は3校、中国の非常に有名な人民大学の先生、それから、台湾の南にあります美和科技大学の先生、そして、韓国の38度線に近い、韓国最大の国立大学、江原大学の先生に来ていただいております。

文部科学省は、「トビタテ！」ということで、日本の若者を海外に出しておりますが、本学で今月、私と野中先生が、カンサス州立大学において提携を結んできました。文部科学省が「ト

ビタテ！」なら、本学は「羽ばたけ！」ということで、世界に学生を送り出していきたい、グローバル人材を育てたいと思っているところでございます。

さて、日本の経済に目を転じますと、アジアを中心に、世界の経済のエンジンは、アジア、特に東アジアに移っております。中国、韓国、台湾、そして日本も非常にグローバル化して、サプライ・チェーンが強力になってきているところです。半製品が中国に流れて、完成品が日本やヨーロッパ、そしてNAFTAのカナダやアメリカに流れている、また、ASEANに流れているということです。

そこで、アジアの流通相手がどうなっているのか、3国の先生たちと一緒に研究したいと思い、「東アジアの流通科学の新たな動向」を本日のテーマにしております。

ちょうど今、TPP（環太平洋経済協力協定）は大詰めを迎えております。アメリカの大きなプレッシャーが掛かっていますが、アメリカはなぜ、米国というのかなと思ったら、17万5,000トンもアメリカは日本にお米を買えと言っています。それで、アメリカを米の国というのだななどと思っているところです。

TPP、それからRCEP（東アジア地域包括的経済連携）、ASEANプラス日中韓にインド、オーストラリア、ニュージーランドを加えたRCEP、そして日中韓のFTA、その結果、FTAAP（アジア太平洋自由貿易圏）を創設しようと政府は動いているように思います。その大きなRCEP、TPP、これを統合した

ものがFTAAPだと思います。

まさに、東アジアのサプライ・チェーンは非常に強力になってきております。ASEANの統合を含めて、ここはまた世界の経済成長のエンジンになっています。

また、目を私たちの食料問題に転じますと、肉類の自給率は12%でしかなく、麦は17~18%、大豆に至っては7%しかありません。この低い自給率をめぐって、私たちは当然、海外から肉も小麦も大豆も買わなければいけないのですが、商社が買いに行くと、中国がもう買っている。大豆のほとんどは中国が買い占めてしまって、日本人は買い負けてしまっているような状況です。食料の輸入については、日中はライバルになっています。

ところが、輸出になると、日本政府は食料の輸出に熱心ですが、輸出先はどこかという、台湾や中国、韓国、日本の農産物を輸出する先は、どうしてもアジアに偏っております。

このように、貿易を通じて、また輸出・輸入は、非常にアジアとの連携が深くなってきて、どうしてもアジアの隣国との密接な関係構築が必要だということが分かります。

そこで、中国人民大学の非常に高名な高鉄生先生をお招きいたしました。高先生は人民大学を卒業された後、政府に入られ、食料の総責任者をされておりました。その後、大学に帰られまして、教授をされるとともに、中国市場学会の理事長をされていまして、流通問題の最高責任者をされている、非常に有名な先生でございます。

また、李炳旻先生は、韓国の大学を卒業された後、北海道の帯広畜産大学を卒業されています。ここ会場にも畜大の同窓生の方がみえています。帯広畜産大学を出られ、九州大学から博士号を取得される方でございます。非常に日本語が堪能で、韓国の農業経済学会の会長もされておられ、日本と韓国の大きな架け橋になっている方です。

また、美和科技大学の林顕輝学長は、台湾の大学をご卒業後、アメリカのミズーリ大学、オクラホマ大学、アイオワ大学を卒業され、気象学や地球科学、環境科学などの数理経済の数理監理をされているむしろ理系の先生です。非常にスマートな先生で、本日は流通の分野ではなく、人間関係についてお話をいただくことになっております。

このように、3国の先生にお集りいただいておりますが、皆さんにお断りしておきたいことがございます。

どうしても隣の国とはいろんなことで複雑な関係、また、微妙な関係にあります。でも、今日はそういう政治のことは抜きで、経済のことに集中してやっていきますので、微妙な政治問題は一度棚上げしていただきたいと思います。また、ほかにも中国から先生方がおみえです。今日の懇親会でゆっくりお話しできるのではないかと考えています。

今日は本当に多くの方にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

(解題・講師紹介：終了)